

国立がんセンター

沿革・組織

設立年月日：昭和37年1月1日

所在地：東京都中央区築地（中央病院）

千葉県柏市（東病院）

組織：中央病院、東病院、研究所、がん予防・検診研究センター、
がん対策情報センター、運営局

定員：1,342名（うち医師239名、平成21年度予算定員）

病床数：600床（中央病院）、425床（東病院）



設置目的

我が国のがん対策の中核的機関として、がんその他の悪性新生物についての診断、治療、調査研究及び医療従事者の研修等を行う。

特徴

○ 質の高い医療の提供

- ・ 年間5,000件の手術、1日約120人の通院化学療法を実施（中央）
- ・ 陽子線治療等先進医療の提供と併せ、モデル的緩和ケアを提供（東）



○ がんの原因・本態解明、革新的な検診法や診断・治療技術の開発、 がん医療の均てん化、がん情報の提供

- ・ 原因・本態解明を通じた予防法や高度先駆的な検診・診療技術の開発
- ・ 多施設共同臨床研究によるがん医療の標準化
- ・ がん医療やがん登録など専門情報等の提供や研修等による人材育成



国立循環器病センター

沿革・組織

設立年月日：昭和52年6月1日

所在地：大阪府吹田市

組織：病院、研究所、運営局

定員：1,010名（うち医師143名、平成21年度予算定員）

病床数：640床



設置目的

我が国の脳卒中、心臓病等の循環器病対策の中核的機関として、循環器病についての診断、治療、調査研究及び医療従事者の研修等を行う。

特徴

○最新・最善の医療の提供

- ・年間約3,000件の重症循環器病救急搬送を受け入れ
- ・国内心移植48例のうち、22例を実施
- ・脳梗塞に対する超急性期血栓溶解療法（tPA静注療法）を年間50例以上実施



○先端医療技術の開発と普及

- ・在宅型体内埋め込み型人工心臓・次世代型呼吸補助装置の開発
- ・世界に先駆けて発見した生理活性ペプチド、タンパク質を診断・治療の開発へ応用
- ・1,400名以上の若手医師を育成、84カ国から900名以上の外国人研修生を受け入れ

